

新育第 3 7 4 号の 2
令和 4 年 6 月 1 7 日

保 育 園 長 様
認 定 こ ど も 園 長 様
地 域 型 保 育 事 業 施 設 長 様
認 可 外 保 育 施 設 長 様
病 児 ・ 病 後 児 保 育 事 業 施 設 長 様

新潟市こども未来部
保 育 課 長
(担当 保育指導グループ)

事故発生報告（令和 3 年度分）について

日ごろより、保育園児の健康及び安全について十分ご配慮いただき感謝申し上げます。
園におけるケガや事故の状況を把握するため、園児の事故発生状況をご報告いただいておりますが、この度、令和 3 年度下半期（R 3.10 月～R 4.3 月）に提出いただいた「災害報告書」「事故報告書」を集計し、年間の事故件数集計結果を別紙のとおりまとめました。年間の事故の傾向についてご確認いただき、今後の参考にさせていただきま
すようお願いいたします。

◆問い合わせ先◆

こども未来部保育課

保育指導グループ 長谷川・岡澤

TEL 025-226-1216

(内線 31216)

【令和3年度 新潟市事故報告件数】

保育課へ届いた年間事故報告件数

1640 件

市立保育施設(85/86 園) 634 件
 私立保育園(51/62 園) 331 件
 私立認定こども園(88/112 園) 656 件
 地域型保育事業施設(8/24 園) 19 件
 ＊(提出施設数/全施設数)

重大事故等件数

152 件

骨折 66 件

〈内訳〉 下肢：22 上肢：41
 鎖骨：1 胸骨：1
 脊椎分離症：1

縫合 73 件

〈内訳〉 頭：18 額：14 顎：15
 頬：1 目・目の周り：6
 耳：1 歯・口：14
 上肢：1 下肢：2 肩：1

歯・口腔内 3 件

その他 10 件

〈内訳〉 熱傷：2 打撲：3
 脳震盪：2 切創：1
 靭帯断裂：1 誤嚥：1

R3 国報告した事故件数

8 件

(全報告件数の約 0.9%)

〈公私別〉
 市立 1 件
 私立 7 件

〈男女別〉
 男 6 件
 女 2 件

〈施設別〉
 保育園 1 件
 認定こども園 7 件

〈内容別〉
 骨折 5 件
 歯 3 件

〈年齢別〉
 1 歳 1 件
 3 歳 2 件
 4 歳 1 件
 5 歳 2 件
 6 歳 2 件

令和3年度は、年間 1,640 件の事故報告がありました。その内、152 件が骨折や縫合を伴う「重大事故等」で全体の約 9% でした。その内訳は、上記のとおりです。また、152 件のうち 8 件が、国報告対象となる重大事故でした。骨折の場合は、ギプス装着期間が 30 日を超えるものが国報告対象となります。歯のケガ（外傷性の脱臼や歯根破折）の場合は、ワイヤー固定期間が 30 日を超えるものが国報告対象となります。

【国報告対象重大事故発生状況(R3.4月～R4.3月)】

令和3年度、国への報告対象となった事故は以下の通りです。

<国への報告対象となる重大事故とは>

- ・死亡事故
- ・治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故等

満年齢 性別	場所	発生状況
傷病名	時間	
6歳 男児 外傷性歯の脱臼	園庭 10:15	本児と4歳児男児が走っていたところ、正面衝突し、本児の左上前歯と4歳児の額がぶつかる。
5歳 男児 右モンテジア脱臼骨折	園庭 10:20	総合遊具のクライミングをしているときに飛んでいるトンボをみつけ、クライミングから降りようとしたところ手を滑らせ、50cmくらいの高さから転落した。右腕を下にして落下。
6歳 女児 右肘骨折	園庭 13:30	うんていで遊んでいたところ手が滑り、1m58cmの高さから落下
3歳 男児 左前腕橈骨・尺骨骨折	遊戯室 10:30	3、4歳児30人くらいが自由に遊んでいる中、一人で走り、滑って転倒した。その際腕を痛めた。
4歳 女児 左上腕骨顆上骨折	保育室 9:30	保育室内でジャンプをし、着地の時に足を滑らせ転倒。転倒した時に左ひじを打った。
1歳 男児 右上腕顆上骨折	遊戯室 9:15	バランスボードにまたがり(高さ40～50cm)、降りる際にバランスを崩し、右腕からマットに落ちる。
5歳 男児 右上A外傷による 歯牙脱臼	保育室 14:30	レゴブロックで作った車をロッカーの上で走らせている他児を追っている際に、座っていた他児の足につまずきバランスを崩し、置いてあった椅子に口元をぶつけた。
3歳 男児 左右上A歯牙破折	保育室 13:15	園庭から保育室に戻り、ジャンパーを脱ごうとファスナーを下ろし両腕を後ろにして飛び跳ねていたところ、前に転び顔を床にぶつけた。

「歯」に関するケガ3件は、すべて、ワイヤー固定が30日以上となるため国報告対象となったものです。「骨折」5件中2件は、手術を伴うもの、3件は、ギプス装着期間が30日を超えたものです。

【事故報告件数(R3.4月～R4.3月)】

* 事故報告件数は、市立保育施設、私立保育園、私立認定こども園、地域型保育事業施設の合計

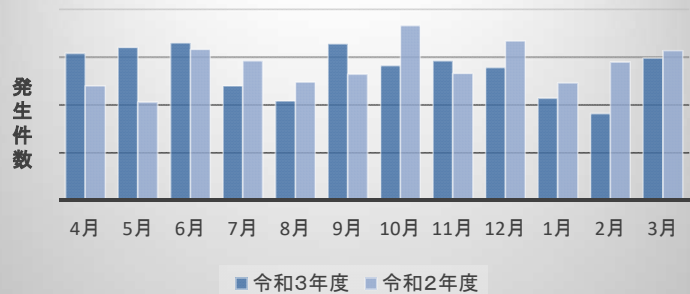
令和3年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
報告件数(合計)*		154	160	165	120	104	164	141	146	139	107	91	149	1640
部位	骨折	2	9	6	6	5	9	8	5	4	0	2	10	66
	頭	10	9	8	10	7	8	8	8	16	5	2	7	98
	口・歯	61	53	38	42	33	36	45	58	48	45	27	51	537
	目・目の周り	21	10	20	17	11	21	15	18	16	17	14	24	204
	額	5	11	21	6	3	8	11	7	7	11	3	9	102
	鼻	3	9	7	3	2	4	3	4	5	1	5	6	52
	あご	4	3	5	5	3	4	5	3	2	4	7	1	46
	頬	12	16	15	3	5	19	10	12	7	9	10	11	129
	肘内障	11	11	15	12	11	18	12	11	14	9	10	7	141
	その他	25	29	30	16	24	37	24	20	20	6	11	23	265
うち県・国への報告		0	1	0	0	1	2	1	1	0	0	1	1	8
令和2年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
報告件数(合計)*		120	103	158	146	124	132	183	133	167	123	145	157	1691
部位	骨折	10	7	10	8	14	6	13	6	4	6	8	8	100
	頭	14	4	10	3	8	8	9	9	9	6	3	9	92
	口・歯	30	40	42	51	31	49	62	40	57	54	58	57	571
	目・目の周り	13	13	14	15	24	12	15	18	33	19	30	21	227
	額	11	3	8	7	4	6	12	14	12	1	7	11	96
	あご	5	6	3	2	1	2	6	6	4	8	7	6	56
	頬	10	5	14	4	2	9	17	15	8	10	7	12	113
	肘内障	10	7	16	19	11	14	18	7	10	7	7	17	143
	その他	17	18	41	37	29	26	31	18	30	12	18	16	293
	うち県・国への報告		1	1	1	2	2	1	2	1	1	2	1	0

令和3年度の年間事故報告件数は、1,640件でした。前年度から約50件減少していますが、令和3年度は、コロナウイルス感染拡大により、休園期間の設定や濃厚接触者となった園児の自宅待機など保育する実数の減少があり、その影響もあったと思われます。

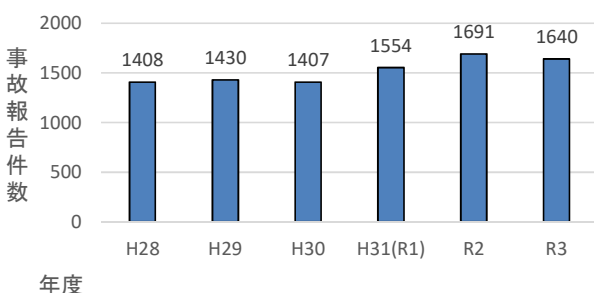
国報告となる重大事故も8件と、前年度の半分になっています。

感染症も落ち着き、それ以前の保育環境に戻っても事故のない日々を過ごしていきたいものです。

【月毎の事故報告件数】



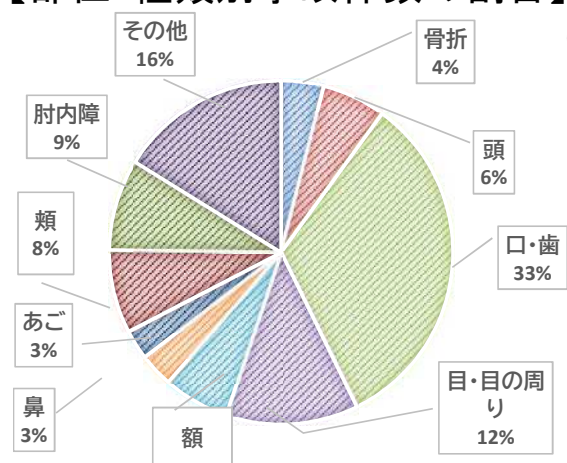
【事故報告年間件数推移】



左のグラフは、平成28年度から令和3年度までの年間に報告された件数を示したものです。数字だけを見ると年々事故が増加しているように見えますが、事故報告の提出が周知されてきた結果でもあると受け止めています。

多くの乳幼児を教育・保育する施設等において、受診を伴うような事故が年間1回も発生しない施設は、0に等しいのではないのでしょうか。事故0に少しでも近づくように、事故報告書を作成することで、発生してしまった事故をきちんと検証・分析し再発防止の意識を高めることが重要です。

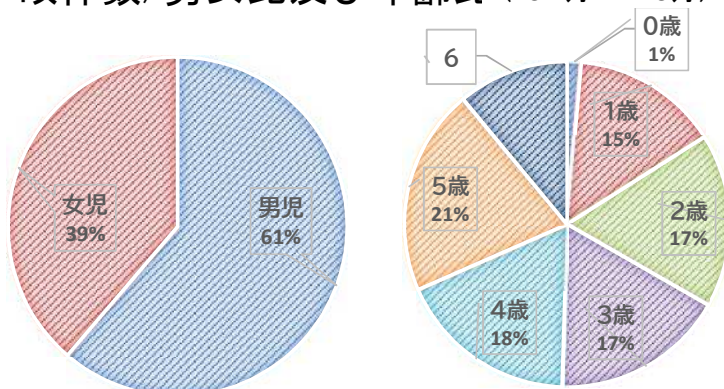
【部位・種類別事故件数の割合】



左の円グラフは、部位・種類別事故件数の割合を示したものです。グラフで示された通り、頭・顔面のケガが全体の71%を占めています。その中でも、口・口の周り・歯のケガは33%で一番多くなっています。

頭や顔面のケガは縫合を伴う処置をすることも多く、年間縫合を伴う73件中、69件が、頭・顔面のケガでした。(別紙1 参照)

【事故件数/男女比及び年齢比 (R3.4月～R4.3月)】



年齢	男児	女児	計	年齢比
0歳	17	6	23	1%
1歳	149	90	239	15%
2歳	180	104	284	17%
3歳	162	120	282	17%
4歳	187	107	294	18%
5歳	197	140	337	21%
6歳	113	68	181	11%
計	1005	635	1640	

男児61.0% 女児39.0%

上の円グラフは、年間事故報告件数の「男女比」「年齢比」をあらわしたものです。

男女比については、男児61%、女児39%でした。独立行政法人日本スポーツ振興センターの全国的な集計でも令和3年度の男女比は男児60.3%、女児39.7%となっており、6:4という割合は変わらないようです。日常から「男の子の事故が多い」と意識しながら、子どもたちの遊ぶ様子を見守るものひとつの取り組みになるのではないのでしょうか。

年齢比については、3歳～6歳の幼児の割合が全体の67%を占めていますが、年齢ごとにみると1歳・2歳も決して少ない割合ではありません。運動機能が未熟な未満児は、保育者の気づき・見守りがさらに必要な年齢といえます。

【施設別事故報告件数】 (R3.4月～9月)

	施設数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1施設当たりの平均
市立保育園・こども園	86	55	58	52	49	47	66	61	58	52	48	33	55	634	7.4 件
私立保育園	62	38	26	31	29	22	37	29	30	34	16	11	28	331	5.3 件
私立認定こども園	112	59	74	79	40	35	57	51	55	52	42	47	65	656	5.9 件
地域型保育施設	24	2	2	3	2	0	4	0	3	1	1	0	1	19	0.8 件
		154	160	165	120	104	164	141	146	139	107	91	149	1640	

上の表は、施設別に分類した事故報告件数です。年間発生件数を施設数で割り、1施設当たりの年間報告件数を出してみました。概ね1施設6件～7件の事故が発生し受診しているといえますが、年間1回も事故報告のない保育施設もあります。逆に毎月事故報告が上がってくる保育施設もあります。前者は、まったく事故がなかったのであれば大変うれしいことですが、報告を怠っているのであれば、改善しなければなりません。事故報告書の提出がよい、悪いではなく、きちんと事実を把握して、事故予防に努める姿勢が大切だと考えます。受診を伴う事故が発生した場合は、必ず事故報告書を提出しましょう。

